

いじめに対する保護者の役割

1、子育ての第一責任者である。

我が子がいじめに巻き込まれたとき、親としていたたまれない気持ちになります。子どもの将来だけでなく、家庭も崩壊する恐れがあります。保護者はこのようなことのないよう「子育ての第一責任者である」ことを認識しましょう。

2、「いじめ」は絶対にしてはいけないことを教える。

子どもとのふれあいの時間を大切に「いじめは絶対に許されることではないということ」をきちんと教えましょう。

3、「命の大切さ」を教える。

親から授かった命はたったひとつです。テレビやゲームの世界のようにリセット出来ません。一度失った命は二度と帰ってきません。子どもたちに「命の大切さ」を真剣に教えましょう。

4、子どもの「小さな変化」に気付きましょう。

精神的、肉体的に追い詰められた時には、心身や行動に異変が生じます。常日頃から子どもの「小さな変化」に気付きましょう。

5、いじめに気付いたら「素早く対応」しましょう。

子どもの「小さな変化」に気付いたら、ひとりで悩まずにまずは、学校の先生に相談して「素早く対応」しましょう。

6、可能な限り「学校行事」に参加しましょう。

子どもが思春期を迎えると、「同世代の仲間を作る」という問題と「大人から自立する」という問題から「わかって欲しい、知られたくない」の葛藤を抱えているものです。子どもの学校で見せる顔と家庭で見せる顔は異なることが多いので、可能な限り「学校行事」に参加しましょう。